

秋田焼山の火山活動解説資料（令和元年6月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。梅森監視カメラによる観測では、湯沼で弱い噴気が認められました。

・地震や微動の発生状況（図2-②、図4）

28 日から 30 日にかけて、山頂の北西約 4 km を震源とする火山性地震が 17 回発生し、一時的に増加しましたが、その他の期間は、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状況

- ・左図：東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2km）の映像（6月9日）です。
叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。
- ・右図：梅森監視カメラ（湯沼の東約1km）の映像（6月10日）です。
湯沼で弱い噴気が認められました。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年7月分）は令和元年8月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

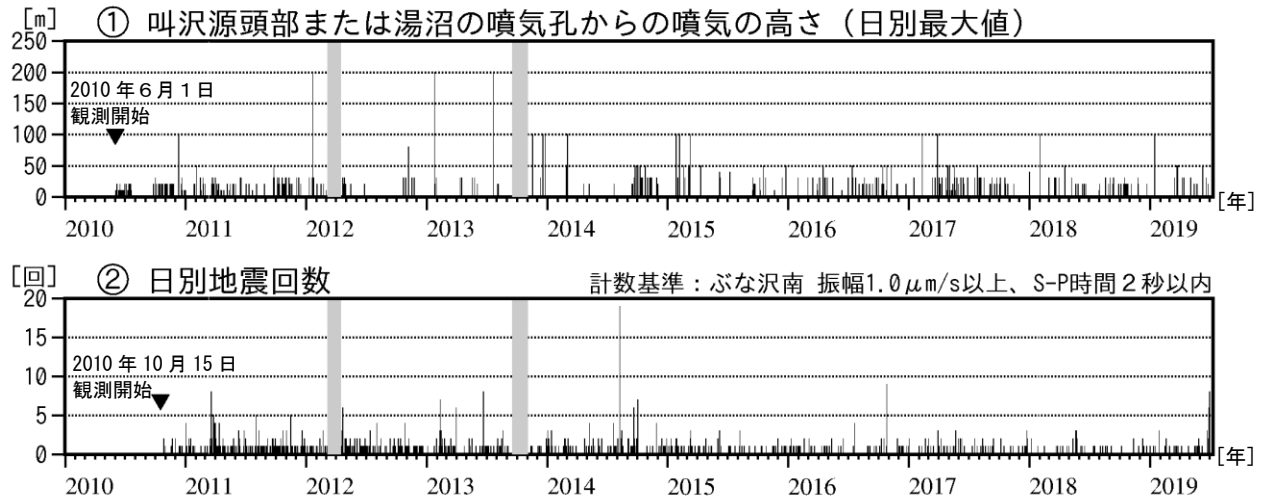


図2 秋田焼山 火山活動経過図（2010年6月～2019年6月）

- ・灰色部分は欠測を表しています。
- ・②2015年9月以降は山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（2010年から2015年8月までは山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を含みます）

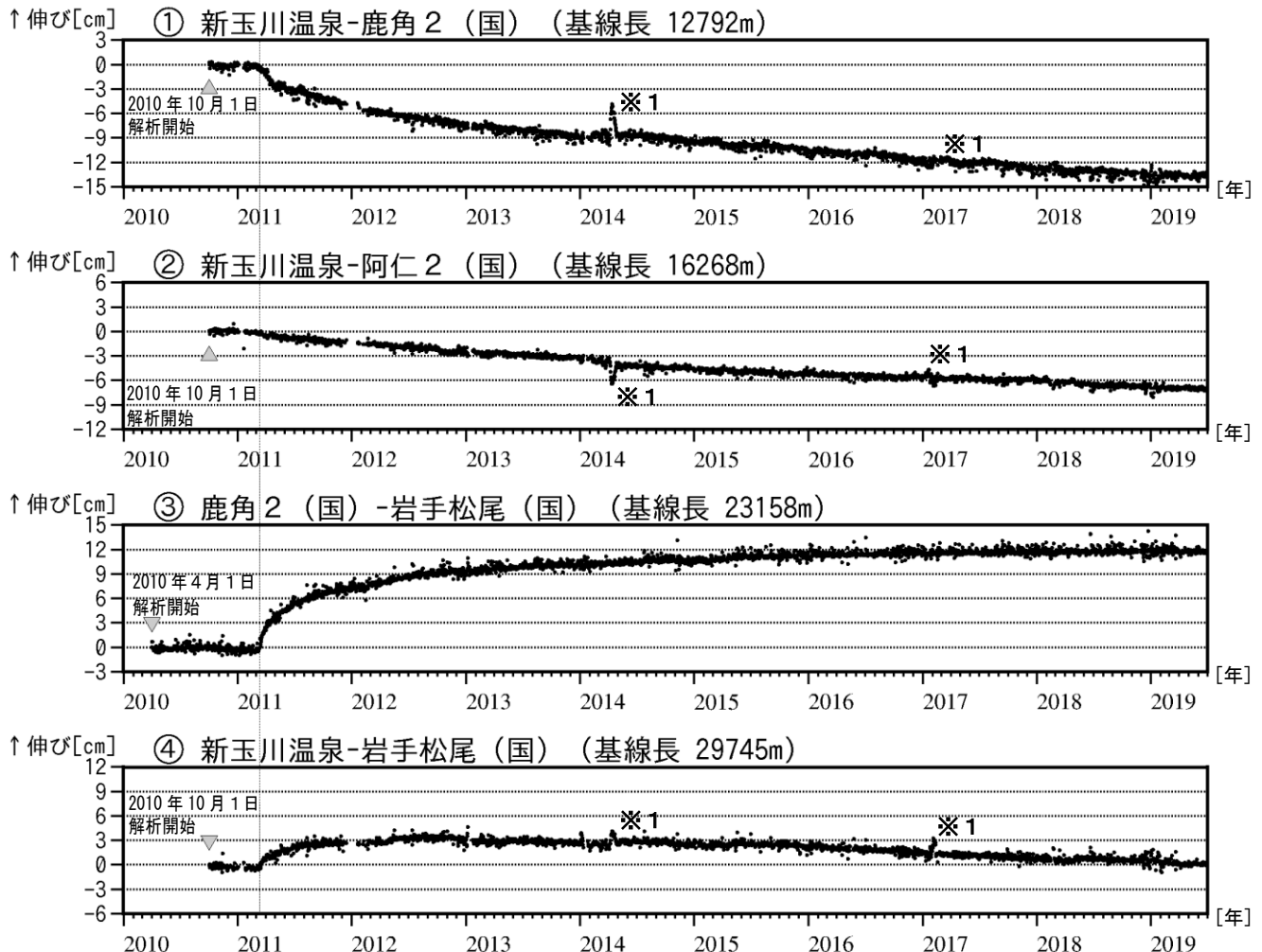


図3 秋田焼山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2019年6月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・①～④は図6のGNSS基線①～④に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ※1 2014年3月から4月、2017年1月から2月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。

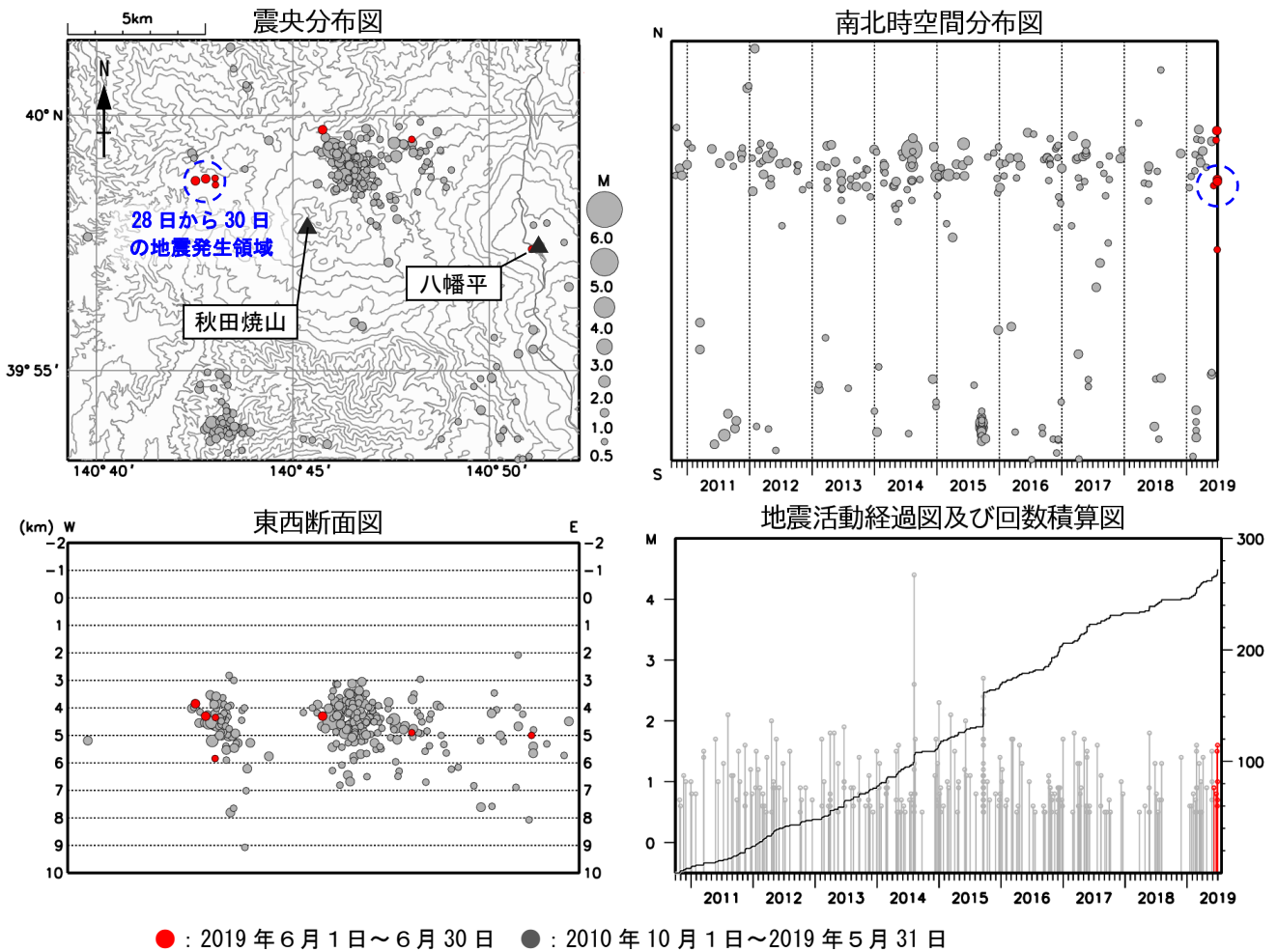


図4 秋田焼山 広域地震観測網による秋田焼山周辺の地震活動図（2010年10月～2019年6月）

- ・ 28日から30日にかけて、山頂の北西約4kmを震源とする火山性地震が17回発生し、一時的に増加しました（青破線）。
- ・ マグニチュード¹⁾ 0.5以上の地震を示しています。

1) マグニチュード（M）は地震の規模を示します。資料中の値は暫定値で、後日変更することがあります。

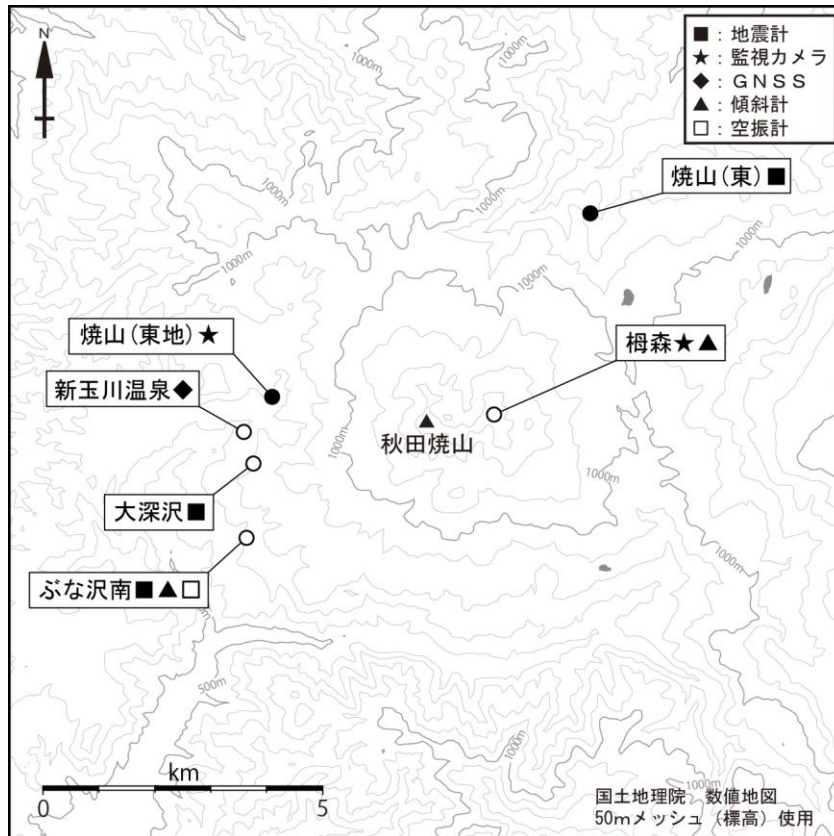


図5 秋田焼山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

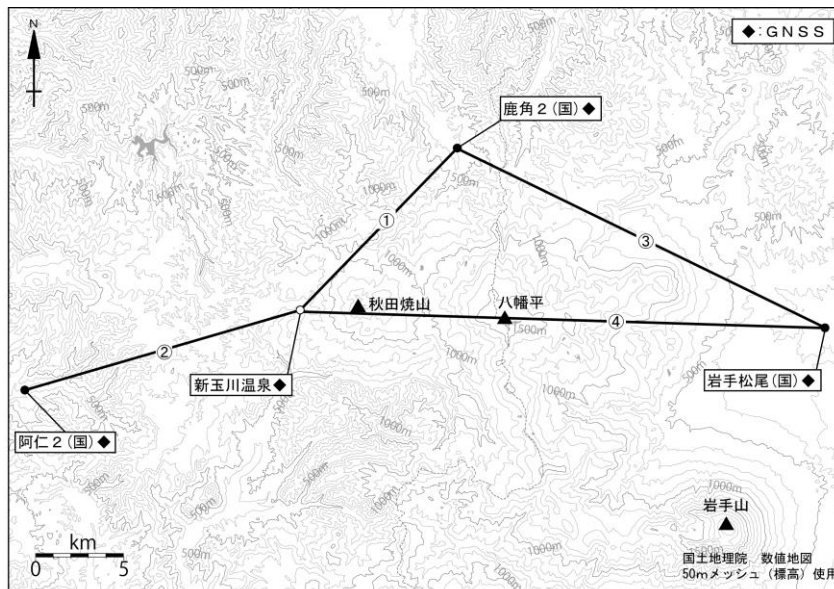


図6 秋田焼山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院